

**(二宮議員)**

平尾台は、国の天然記念物であり、国定公園、そして本県にとりましても、自然公園の指定を受けた貴重な公園であります。

北九州市小倉南区、行橋市、香春町、苅田町、みやこ町にわたる、この平尾台は、山口県の秋吉台、愛媛・高知の県境にある四国カルストと並び、日本三大カルストの一つとされています。

本県が所有する施設である平尾台自然観察センターは、このようなかけがえのない自然を守り、育て、次世代の子どもたちに引き継ぐために、平尾台の自然を愛する多くの方々の協力を得て設置されました。

平尾台のガイドボランティアは、この平尾台自然観察センターにて行われる諸行事等のイベントガイドを行うボランティアで、本県の環境行政の推進に欠かせない重要な存在であると考えます。

そこでまず、「平尾台のボランティアの活動内容と人員の推移」について資料をお願いしています。資料に基づき説明をお願いします。

**【自然環境課長】**

平尾台のボランティアにつきましては3種類あります。

まず、「ガイドボランティア」は、野草や昆虫の自然観察会や登山ハイキングなどのイベントにおいて道案内や動植物の解説などのガイドを行います。

これには、往復1時間程度から半日かかるコースまで様々なコースがあり、ガイドボランティアが同行します。

「草刈りボランティア」は、安全確保を目的に、散策道や駐車場の草刈りを行

います。

「散策道ボランティア」は、自然保護や安全対策を目的に、標識や侵入防止柵の作成等を行います。

ボランティア人員の推移については、近年 100 名前後で推移しておりましたが、令和元年度、2 年度は減少しております。これは新型コロナウイルス感染症拡大の影響だと思われます。

しかしながら、令和 3 年度からは、約 100 名程度と回復してきているところです。

(二宮議員)

今回は、ガイドボランティアに絞って質問します。令和 4 年度における人員は、106 名となっていますが、そのうちガイドボランティアは何人くらいいますか。平尾台自然観察センターで行うガイドボランティアの活動の意義について、県として、どのように考えているのか、お伺いします。

【自然環境課長】

ガイドボランティアは、現在、26 名の方が登録しています。

意義については、カルスト台地特有の景観や希少な動植物の生態を学んだガイドが、付き添って解説することで、訪れた方々の平尾台の自然に関する理解が深まり、生物多様性の保全や自然環境保護の重要性を広めるものと考えております。

(二宮議員)

ガイドボランティアの採用にあたり、試験や研修等はどのように実施されているのか。また、年齢等の制限があるのかどうか、お伺いします。

【自然環境課長】

ガイドボランティアについては、採用にあたって試験は実施していませんが、研修を受講していただき、その後、活動してもらうこととしております。また、年齢等の制限はございません。

(二宮議員)

ガイドボランティア活動を担う方の高齢化により、従来の活動に支障をきた

すような事態が起きていないか、また、将来そのような事態が起きないか危惧されるところですが、課長の考えをお聞きします。

【自然環境課長】

ガイドボランティアの方々の年齢は、60歳代以上の方が約7割を占めています。

個人の体力に合わせたボランティア活動に従事していただいているため、現在、特に支障は生じておりません。

50歳代以下の方が少ない状況にあるので、ホームページやイベントに参加する団体への呼びかけに加え、今後は、SNSなどを使って、働きかけを行っていきたいと考えております。

（二宮議員）

ガイドボランティアの活動を、より効果的に行うための工夫はどのように図られているのか。また、今後のガイドボランティアの育成をどのように行っているのか、お聞きします。

【自然環境課長】

ガイドボランティアの活動を効果的に行うため、平尾台に生育している植物の生育場所や開花時期等を記載した地図を共有することで、利用者に対し、季節に応じた適切な解説・説明ができるようにしています。

また、ガイドボランティアの研修会では、経験の浅い方の育成のため、ベテランガイドと一緒に平尾台を回りながら解説のポイントを説明するなど実践的な研修を行っているところです。

（二宮議員）

平尾台自然観察センターで行うガイドボランティアの活動において、近隣の施設などの別のボランティア活動との連携等は行われているのでしょうか。

【自然環境課長】

近隣の平尾台自然の郷とは、先ほど申しあげた平尾台に生育している植物の生育場所や開花時期を記載した地図などの情報を共有することで、ガイド活動に役立てております。

また、平尾台自然の郷や皿倉山ビジターセンターとは、ガイドボランティア募集情報を相互に提供しあって、広く募集するなど連携を行っているところで

(二宮議員)

これまで、平尾台自然観察センターにおけるガイドボランティアの活動における工夫や育成等についてお聞きしました。県として、ガイドボランティアの活動を進めていることを認識したところです。

私は、小倉南区に住んでいまして、子どもが小さい頃、何回、平尾台に行ったことかと、改めて思い返しているところです。空気が美味しく、そして自然に恵まれたところであり、夜はまさしく、星がこんなにたくさんあるのかと再認識できるような、また、ある時は、流星群を見に行ったとか、子どもたちのためにも、そして、息抜きをするところにあっても、素晴らしいところだと、認識しています。

今後、ウィズ・コロナの時代に、県民の方が自然に触れる機会は益々増えてくるものと思われます。そこで、平尾台におけるガイドボランティアの活動が一層促進されていくことが必要だと思えます。このことについて、部長の決意をお尋ねします。

【環境部長】

平尾台自然観察センターを訪れる方は、コロナ禍前と比較して、令和2年度では4割にまで減少したところですが、現在は少しずつ増加しつつあります。

このことから、今後、平尾台を訪れる方も増えてくるものと思われ、ガイドボランティアの活動がますます求められることになると思います。先ほど課長も申しあげましたとおり、訪れる方にガイドボランティアが付き添って解説することで、平尾台の自然に関する理解が深まり、生物多様性の保全や自然環境保護の重要性を広めるものと考えております。

このため、ガイドボランティアの更なる育成や、新たなガイドボランティアの確保を図り、ガイドボランティアの活動が一層促進されるよう取り組みを進めてまいります。